令和５年度　第３回　図書館協議会　会議録

１　日時

令和６年３月 18 日（月）午後２時 30 分～午後４時

２　場所

ラトブ４階　いわき総合図書館学習室

３　出席者

⑴　委　員

委 員 長　小野　順一

副委員長　柳田　明美

委　　員　柴田　達八、長谷部　裕美、草野　祐香利、吉村　忠晴、有賀　史人、長岡　智子、青山　岳志

（欠席者）塩　陽子

⑵　事務局

ア　いわき総合図書館

武山館長、黒羽副館長、山野邊副館長、片寄主任主査、小林主任主査、桑原総務管理係長、横田情報資料係長

イ　地区図書館

勿来図書館長、常磐図書館長、内郷図書館長、四倉図書館長

４　議事

⑴　報告事項

ア　令和５年度図書館利用実績等（１月末日現在）について

イ　令和６年度当初予算について

ウ　いわき総合図書館等運営一部業務委託に係る公募型プロポーザル実施結果について

⑵　協議事項

ア　令和６年度運営方針、重点事業及び主要事業（案）について

イ　令和６年度事業計画（案）について

ウ　令和６年度移動図書館運行計画（案）について

エ　図書館運営の数値目標の現状について

５　その他

⑴　（仮称）常磐地区交流拠点施設整備事業について（創生推進課）

６　閉会

ー　会議内容　（司会進行：黒羽副館長）　ー

１　開会

（委員 10 名中９名が出席しており、いわき市立図書館協議会規則第４条第１項の規定による半数以上の出席があり、会議が成立した。）

２　いわき総合図書館長あいさつ　　館長

３　委員長あいさつ　　小野委員長

４　議事

いわき市立図書館協議会規則第２条第３項の規定により、小野委員長が議長となり、会議を進行した。

⑴　報告事項

ア　令和５年度図書館利用実績等（１月末日現在）について

事務局より、会議資料３～11頁に基づき説明した。

令和６年１月末日現在の登録者数については、市の人口（約32万人）に対して、有効登録者数が人口の約23%、新規登録者数は人口の約10%に止まっており、登録者を増やすことが課題であること、市立図書館の蔵書冊数は増加していること、貸出冊数は減少しているが、総合図書館の来館者数は増加傾向であることなどを説明した。（総務管理係長）

イ　令和６年度当初予算について

事務局より、会議資料 12 頁に基づき説明した。（総務管理係長）

ウ　いわき総合図書館等運営一部業務委託に係る公募型プロポーザル実施結果について

事務局より、会議資料 13 頁に基づき、株式会社図書館流通センターが受託候補者となったことについて説明した。（総務管理係長）

⑵　協議事項

ア　令和６年度運営方針、重点事業及び主要事業（案）について

事務局より、会議資料 14～18 頁に基づき説明した。（山野邊副館長）

イ　令和６年度事業計画（案）について

事務局より、会議資料19～25頁に基づき、令和６年度企画展や常設展について、また新たな取り組みとして、赤ちゃんへのはじめての絵本事業における図書館利用カードの申請受付、学校支援ルームを活用した多様な学びの場の整備などについて説明した。（情報資料係長）

ウ　令和６年度移動図書館運行計画（案）について

事務局より、会議資料26～27頁に基づき説明した。（片寄主任主査）

エ　図書館運営の数値目標の現状について

事務局より、会議資料28頁に基づき説明した。数値目標のうち「全蔵書冊数に占める児童書の蔵書冊数の割合」について、目標を達成する見込みであることを報告した。また、来館者数を新たな数値目標として加えることも検討したい。（情報資料係長）

（意見、質疑応答）

吉 村 委 員：来館者数という視点は必要である。高専図書館でも貸出冊数は落ちている。これは、図書館の利用方法が多様化し、新型コロナにより非来館型のサービスが充実したことも一因である。また、総合図書館の位置付けが、駅前の中心市街地活性化における核の施設であり、まちのにぎわいなどを考えた時は、来館者にフォーカスした方がよいのではないか。図書館を利用したまちづくりという観点では、来館者数を数値目標に加えるべきであると考える。

事　務　局：貸出冊数については、全国的に減少傾向にある。総合図書館においても、居場所づくりとして様々な取り組みを行っている。また、新たな取り組みとして、４か月児健康診査会場における図書館利用カードの申請受付を始めるとともに、学校支援ルームの平日開放、夏場のクールスポットなど、本の貸し借りだけではない、多様な使い方をしてもらえる取り組みを進めていきたい。

小野委員長：学校支援ルームについて、これまで平日に開放していなかったのはなぜか。

事　務　局：これまでは、学校の調べ学習時にクラス単位での利用を想定した部屋であったことから、学校休業時の週末及び夏休みなどに限定して開放していた。

有 賀 委 員：貸出冊数や来館者数の減少というのは、都市部と地方も同じ傾向なのか。

事　務　局：自治体をあげて、図書館を核にしたまちづくりを進めているところなど

では、利用減少に歯止めがかかっているところもある。

「人口減少＝利用者減」ということではなく、人口が減少しても、１人当たりの貸出冊数を増加させる取り組みを行うことで、図書館全体の利用を増やしているところもあるようだ。

有 賀 委 員：自分は古書の販売を行っているが、催事等での売り上げは伸びており、本の需要が減っているようには感じない。

吉 村 委 員：貸出される本の分野や傾向についてのデータはあるのか。

事　務　局：『令和５年度 いわき市の図書館』の 52 頁に、「蔵書区分別図書貸出冊数」の統計が掲載されている。これによると、最も貸し出しが多いのは９類文学、次いで５類工学となっている。なお、５類の工学には、「590 家政学」の実用書が含まれるので利用が多いものと思われる。

吉 村 委 員：高専図書館では、利用の多い分野に絞って図書購入を行っている。利用者のニーズを汲むことで、貸出冊数の増加が見込まれるのではないか。

長谷部委員：貸出冊数を増やすだけなら、利用が多い９類文学だけを購入すればよいのかもしれないが、貸出冊数を伸ばすことだけが公共図書館の目的なのか。

事　務　局：限られた予算のなかで、利用者のニーズに応えながら、図書館の資料収集方針に沿った選書を行うことはとても難しい。

吉 村 委 員：市立図書館では、図書の寄贈は受け付けているのか。

事　務　局：地域資料の寄贈は受け付けている。

吉 村 委 員：我々研究者は専門書を持っているが、こういったものを寄贈受け付けすると蔵書の充実が図られるのではないか。

事　務　局：情報や内容の鮮度、資料収集方針に沿った図書かなど、検討すべき課題があり全て受け入れられないのが現状である。

吉 村 委 員：了解した。

※ 以上で議事はすべて終了し、協議事項については原案通り承認となった。
引き続き、委員長より、各委員から意見を求める発言があった。

柴 田 委 員：小学校の子ども達の読書活動について、コロナ以前よりも活性化していると感じている。調べ学習などで、全員が同時に同じテーマの本を使って学習を行う場合は、市立図書館の蔵書を活用することが有効であると感じている。

また、学校では本を読むことの楽しさを感じてもらえるような働きかけを行っているが、実際に図書館に連れて行くのは保護者になる。その点では、開催中の常設展「集合！小学校の校章」は、親子で楽しめる内容で、子ども達からも見てきた、という声が多く寄せられている。今後もこういった展示が開催されるとよいと思う。

長谷部委員：今の高校生を見ていると、本棚の前に来ると何を選んだらよいか分からず途方に暮れてしまう子がいる。自分の興味関心と本が結びついていないように感じる。今後も、高校図書館と市立図書館で協力して、こういった子達へアプローチすることが、高校生の不読率の改善につながるのではないか。

草 野 委 員：赤ちゃんへのはじめての絵本事業や、プレママ・プレパパ向けのパンフレットなどを通して、乳児期の読み聞かせの重要性については啓発が進んでいると感じる。今後は、親が自分で絵本を選んだり、図書館で絵本を借りて読み聞かせをする、といったことにつながるよう、地域の子育て支援を行っている立場で協力していきたい。

有 賀 委 員：古書の流通市場で言えば、古いから売れるということでもなく、逆に国立国会図書館でデジタル公開されると売れなくなる。図書館資料の除籍と同じで、古書の世界でも世代交代があって、それに応じた本の入れ替えが必要だと感じている。

長 岡 委 員：音訳ボランティアをしている。事業計画に録音図書を増やすとあり、ボランティア数が減ってきており活動に不安があるが、録音図書講習会など学習の機会もあるようなので、今後とも協力してきたい。

青 山 委 員：図書館では、子ども向けの事業を多く開催しているようだが、図書館の本や事業を通して、子どもたちがマナーやルール、思いやりを身に付けることができるとよいと感じた。

柳田副委員長：学校支援ルームの開放について、来年度からは平日に不登校の子ども達の多様な学びの場として開放するということだが、タブレット学習も可能なのか？

事　務　局：Wi‐Fi 環境もあるので可能である。

柳田副委員長：家からは出たいが学校には行けない子や、不登校でも本が好きな子はいるので、ニーズはあると思われる。

事　務　局：図書館は、原則誰でも利用できる施設であることから、学習支援ルームについても同様の考え方で開放している。図書館は自由な場所なので、不登校の子のためだけでなく、これまで通り読書や学習でも利用してもらいたい。

小野委員長：中心市街地の活性化と図書館、という観点から意見を述べたい。いわき駅前は、旧イトーヨーカドー跡地への商業施設の開業、200 戸規模のマンション建設や松村総合病院の移転など、駅前の様相が早いスピードで変化しており、それに合わせて総合図書館も変化する必要があると考える。来館者数や貸出冊数の伸びている図書館もあるようなので、そういった事例を参考にすることも必要なのではないか。

前回の協議会でも申し上げたが、これからの図書館を考える時、「連携」がキーワードになると思う。例えば、地域のイベントや商業施設、企業との連携や、いわき市の課題である公共交通機関との連携も興味深い。

図書館が外に出向いて情報発信したり、図書館のブランディングなど、これからも考えていく必要があると思う。図書館は、まちの発展や活性化に寄与するものだと思う。ぜひ、地域に必要とされる図書館であり続けるため、更なる取り組みを期待したい。

小野委員長：委員の皆さまには貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。ここで議長の職を解かせていただきたいと思います。

５　その他

⑴　（仮称）常磐地区交流拠点施設整備事業について

創生推進課より、配布資料に基づき説明を行った。

（意見、質疑応答）

青 山 委 員：関船体育館や常磐市民会館の跡地はどうなるのか。

創生推進課：跡地については、「常磐地区市街地再生整備基本計画」において公的不動産利活用事業として検討していく予定である。

吉 村 委 員：常磐図書館の在り方について、個人的な意見だが、スペースの問題やコ

ンセプトを考えると、閲覧のみの図書だけを置くのもひとつの方法であると思う。貸出用図書についてはWeb予約したものだけを貸し出す、といった思い切った形も必要ではないか。

⑵　特定非営利活動法人Commune with 助産師(代表　草野祐香利委員)の第75回保健文化賞の受賞について
事務局より説明を行い、草野委員からあいさついただいた。

６　閉会